

「鳥取方式」で 芝生化大展開



芝生化された校庭で運動する境港市立誠道小学校の子どもたち
(境港市教委提供)

子どもたちの体力低下が社会問題化する中、鳥取県は校庭や園庭の全面芝生化を本格化させる。屋外で走り回るだけでなく、落ち着きにもつながるなど効果が大きいと判断した。2010年度はモデル校を指定し、芝生化の取り組みに対して助成制度を創設。体力向上に効果があるか検証するほか、県産芝の活用の可能性も探って生産拡大を目指す。

芝の苗を点在させるように植え、低コストで環境に配慮した「鳥取方式」の芝生化が全国で注目を浴びるよう

モデル校指定し助成

県産芝活用も探る 体力向上検証

県が本腰

になり、県内でも取り組みが広がりつつある。県内でも取り組みが広がりつつある。県内でも取り組みが広がりつつある。県内でも取り組みが広がりつつある。

しかし、県内の小学校や幼稚園などで全面芝生化した割合は4%程度で、県は「芝生化は部分的よりも全面化の方が効果は大きく、お手本のような事例を生んでいきたい」と説明。10年度は庁内の7補助し、スプリングラ

ケートを行い、精神面の影響なども調べる。また、県内40カ所の幼稚園・保育所を芝生化する計画で、1カ所当たり100万円を上限に補助。県立3校(倉吉東高、智頭農林高、鳥取聾学校ひまわり分校)の芝生化も決めた。このほか、公園を地域住民が中心となって芝生化する場合、上限125万円を支援する。

一方、県産芝は「和芝」が大半年で、07年度の作付面積と出荷数量、生産額はいずれも茨城県に次いで全国2位を誇る。ただ、校庭などの芝生化に用いられてきたのは成長力が高い「洋芝」が多いため、県園芸試験場(北栄町)が新開発した和芝の耐久性などの調査に乗り出す。

県産芝の活用も探る。県産芝の活用も探る。県産芝の活用も探る。県産芝の活用も探る。県産芝の活用も探る。